



コロナ禍で改めて考える「学校の役割」とは？

コロナ禍の子どもたち

コロナ禍により学校教育の制限が始まってから、早一年半余りが過ぎようとしています。これほどまでの長期間、我が国の子どもたちが様々な制約の下で学校生活を送っているのは、第二次世界大戦以来のことです。

友人と大声で話すことやじゃれ合うことを禁じられ、給食は黙食。宿泊を伴う修学旅行や部活動の大会など人生の節目となる行事を経験できないまま大人になっていく子どもたち。私たち大人が当たり前を経験してきたことの多くを経験できていないのが、今の子どもたちです。生活が単調になり、時間の流れも単純化しており、大人になったとき、コロナ禍の記憶がぼんやりして空白になってしまう可能性があります。様々な体験を共有できないまま、ただ「記憶の空白」を共有する世代になってしまうのではないかと危惧しています。

学校の役割とは

改めて「学校の役割」とは何なのでしょう。学校の役割は次の3つに集約されると考えます。

- ①学習機会と学力の保障。
- ②人と人が触れあうことにより期待される心身の発達や成長の保障
- ③安全安心な居場所、身体的・精神的な健康の保障

このうち、①についてはオンライン授業でも可能なことです。しかし、②と③については学校というリアルな場に子どもたちが集うことでしかできないと考えます。多様な価値観や個性をもった子どもたちが、お互いを知り合い、生活や行事、学び合いなどを共にする経験を積むことにより心身ともに成長していく、このことが学校の重要な役割といえます。

2学期の主な行事予定

コロナ禍で様々な行事が延期・中止・規模の縮小を余儀なくされています。このような状況でも本校ではできる限り行事を中止とはせず、感染対策を講じながら実施していく予定です。感染状況が悪化した場合にはやむなく中止せざるをえないこともありますが、できる限りの努力をして行事を実施し、子どもたちに「みんなで何かを成し遂げた」という共有体験をできるだけ多くさせ、「記憶の空白化」を避けたいと考えるからです。

- 10月 7日(木) 体育祭
- 10月 8日(金) 生徒会本部役員選挙
- 10月 13日(水) 14日(木) 中間テスト
- 10月 15日(金) 1年生校外学習
- 10月 20日(水) 3年生修学旅行
- 10月 22日(金) 3年生進路説明会
- 10月 23日(土) 市総体駅伝競走大会
- 10月 29日(金) 合唱コンクール

- 11月 2日(火)~10日(水) 全校三者面談
- 11月 24日(水)~26日(金) 期末テスト
- 12月 24日(金) 終業式

裏面に詩人 茨木のり子さんの詩を載せました。
ご一読ください。

自分の感受性ぐらい

ばさばさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを
近親のせいにするな
なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性ぐらい
自分で守れ
ばかものよ

茨木のり子
詩集「自分の感受性ぐらい」
(1977年)所収

◇最後の「ばかものよ」という叱咤の言葉は少しどぎつい表現ですが、きっと茨木さんが自分自身に向けて放った言葉であると思います。心にずっしりと響く言葉です。1977年(昭和52年)の作品ですが、コロナ禍の現在、いろいろなことを考えさせてくれます。「コロナのせい」にするのは簡単です。しかし、何事も他人や社会や時代のせいにするのではなく、「自分で受け止め、自分できちんと考えて生きていく」ことの大切さを痛感させられる詩です。